

第4次日野町教育大綱のパブリックコメントの結果について

- 1 募集期間 令和7年11月5日（水）～11月26日（水）
- 2 意見等の件数 4件（20代：1、50代：2、60代：1）
- 3 意見等への回答

- ①すでに実施済み、実施中、実施予定
- ②第4次日野町教育大綱に記載し取組みます
- ③第4次教育大綱に記載しませんが、実施に向けて検討します（教育振興基本計画などで検討）
- ④第4次日野町教育大綱で取り組むことができません
- ⑤その他

番号	提案・意見の内容	回答
○全体を通して		
1	人口減少が進む状況下において、少ない人数でより効率的な事業をしていくことが必要かと思います。一方で、児童生徒も、より多くの人と一緒に学び合うことで、資質・能力を高めることができると思います。地域住民においても同様かと思います。については、少なくとも日野郡3町が、日野高校に関する事業のみにとどまることなく、連携、協働して施策を進めることが必要ではないかと思います。このような考え方を、大綱の基本的な方針の一つに据えて、検討されることを提案します。	⑤その他 第4次教育大綱には記載していませんが、「日野郡教育ビジョン」により、日野郡3町が連携して幼児・学校教育などに取組みます。
2	全体として、教育は受けるという受動的なものではなく、自分たちで作ったり決めたりするものであるというコンセプトがいいのではないかと考えました。子どもに主体性を求める分、大人もそうあるべきと考えます。ただし、それは楽しいことでもあるように感じます。	③第4次教育大綱に記載しませんが、実施に向けて検討します 子どもが主体的に学ぶことができる多様な教育環境の実現は、これから社会で生きていく子どもたちには必要な視点であると考えます。今回の大綱には記載しませんが、今後の検討課題の一つであると認識しています。

1. 少人数の強味を活かした子育て支援と生きる力の基礎を育む幼児教育の推進		
1	<p>この項に、施策についての記述はありますが、どのような子どもを育てたいのか、全く記載がありません。まずは、どのような子どもを育てたいのかを明確に、そのために、どのような施策を行うのか示される方がよいと思います。</p>	<p>③第4次教育大綱に記載しませんが、実施に向けて検討します（教育振興基本計画などで検討）</p> <p>育てたい子どもの姿としては、保育目標にあるように①心と体が生き生きしている子、②自分もまわりの人も大切にする子、③自分の思いを表現する子、④夢中になってやりきる子の4項目を目標にしていますが、今回の大綱には明記せず、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭に置きながら、「日野町学びの基礎を育むプログラム」を改訂する際に、乳幼児の各時期における育てたい力を明確化します。</p>
2	<p>確かにアウトリーチ型の支援は必要だと考えますが、いつの間にか教育は行政から受けるサービスと1つという意識が浸透しつつあるように感じます。子どもの生活・学習習慣をはじめ、我が子の教育の一番の当事者は、保護者自身であることを何らかの形で意識していただけた取り組みはないかなと考えます。</p> <p>また保育所の人事交流を郡内などでできないでしょうか。多様な学びの機会があるとそれが子どもに還元できるのではないかと考えます。</p>	<p>③第4次教育大綱に記載しませんが、実施に向けて検討します</p> <p>保護者への意識づけは重要な課題であると認識しています。今後、具体的な取り組みを検討する際の参考にさせていただきます。</p> <p>また保育所の人事交流については、日野郡連携会議において相互視察と合同研修会を実施し、交流を図っているところです。</p>
2. 地域を支える人財を育成する学校教育の推進		
1	<p>重点取組施策の中に、「個別最適な学びの実践」とあります。文部科学省は、「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実」としており、「個別最適な学び」のみではなく「協働的な学びと一体的に充実」という表現も必要かと思います。また、個別最適な学びは一人一台端末活用の目的でもなく、またそれによってのみなされ</p>	<p>⑤その他</p> <p>「一人1台端末の活用」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に修正します。</p>

	る学びでもないので、表現を修正されるべきかと思います。	
2	英語教育については、他町村が行なっているような海外研修に取り組んでみてはいかがでしょうか。また、海外の都市と姉妹都市提携をして、そこの学校といつでもオンライン交流ができるような環境整備はできないでしょうか。	③第4次教育大綱に記載しませんが、実施に向けて検討します 英語教育の海外研修やオンライン交流については、語学だけでなく、海外の文化や生活様式を学ぶうえで、とても必要なことだと考えます。ご意見として伺い、具体的な取り組みを検討する際の参考にさせていただきます。
3	【A I 時代だからこそ大切にしたい“人間らしさ”】 A I が生活のあらゆる場面に広がる今こそ、人間の温かさ、想像力、対話を通したつながりがさらに大切になります。A I は情報処理が得意ですが、心に寄り添い、自然や文化を味わう感性は人だからこそ育つ力です。日野町の子どもたちには、A I を道具として使いこなしながら、自分らしく生きる軸を育んでほしいと思います。	①すでに実施済み、実施中、実施予定 A I の使用にあたっては十分に注意が必要です。日野学園では、A I を答えを求める道具ではなく、自分で考えるための補助的なツールとして使用するよう指導しています。
4	【神社仏閣・文化財が伝える日本的な心】 日野町には歴史ある神社仏閣や文化財が多く残されており、日本人が古くから大切にしてきた自然観や共同体意識が息づいています。こうした場所は、子どもたちに穏やかさと安心をもたらし、自分のルーツや文化を感じる貴重な時間を与えてくれます。これらを学びに生かすことは、A I 時代においても子どもの心の土台を支える大切な機会になると考えます。	③第4次教育大綱に記載しませんが、実施に向けて検討します 日野町の歴史ある神社仏閣や文化財を学びに生かすことは、子どもたちの豊かな心を育てる素材の一つであると考えます。ご意見として伺い、具体的な取り組みを検討する際の参考にさせていただきます。
5	【教科担任制と人権教育に関する現代的視点】 教科担任制は一定の効果がある一方、小規模地域である日野町では、一人の大人が継続的に子どもを見守る関係性の方が、心の安定や学びの深まりにつながります。また、旧来型の人権教育は現代の子どもの実感と離れる場面もあり、人権がどのように歴史の中で育	①すでに実施済み、実施中、実施予定 教科担任制が学力向上だけでなく、児童の心の安定につながるとの認識はあります。特に6年生から7年生に進級した時は学習内容の量が増え、それに伴って教科書も大きく変わります。その変化に対し、教科担任が変わらないということは生徒に大きな安心感を与

	まれてきたかを学ぶことが、より深い理解につながると考えます。	えると思います。このような効果も意識しながら学習活動を進めていきます。また、人権教育は全体計画、年間指導計画を元にして指導をしています。教職員も毎年、西部地区や県の研修会に参加し、指導の改善に生かしています。今後も児童生徒の実態に合わせた人権教育を実施していくよう工夫、改善を図っていきます。
6	<p>【教育DXと端末利用に関する視点】</p> <p>教育DXは、まず教員の事務負担軽減や業務の効率化といった“大人側のDX”が整うことが重要です。一方で、一人一台端末の導入は、使い方によっては学びを機械化しすぎてしまう恐れがあります。子どもの発達段階を考えると、端末利用は「必要な範囲での活用」にとどめ、自然、友達との対話、手を動かす学びを優先するバランスが大切です。</p>	<p>①すでに実施済み、実施中、実施予定</p> <p>タブレット端末の使用にあたっては教員の負担軽減も目的の一つですので、負担増にならないよう注意します。</p> <p>また、一人一台端末は様々な弊害の可能性も指摘されています。授業の内容も端末の使用に偏りすぎず、「学習の補助的なツール」として使用し、対話によるコミュニケーションなどとのバランスを考えながら学習を行います。</p>
7	<p>地域を支える人財の育成は、地域に残る人財を育てるのではなく、地域を創る力のある人財を育てる必要があるところだと思います。また、日野町は人口最小県の鳥取県の中でもさらに最も人口の少ない町もあります。これは言い換えれば、日本の近未来の社会を象徴するような、いわばトップランナーの立ち位置にあると考えます。</p> <p>そういう背景の中で今、学校の地域連携が言われています。しかしながら日野町は学校と一緒に作るべき地域人財の減少も大きな課題となることが今後想定されます。この日野町全体が大きな学校であり、町民全員が町の子どもの教育の当事者であるというコンセプトの元、教育を進めていく必要があると思います。</p>	<p>①すでに実施済み、実施中、実施予定</p> <p>人口減少による地域人材の減少は町としての大きな課題です。教育においても同様で、コミュニティスクールや地域学校協働活動などの取り組みを更に深め、町全体で教育を行う機運を高めていきます。</p>
8	はばたき科の学習で、町の問題を解決する学習をして、最終的に	①すでに実施済み、実施中、実施予定

	町に生徒が提言したり討論したりする活動を役場の方や地域の方と行い、それがもしも実現したならば、町への愛着が増すとともに、将来の町を創る人材を育てることにもつながると考えます。そんな体制がもしも構築できたらありがたいです。(北海道浦幌町など)	毎年実施している「6年生議会」では「はばたき科」の学習で学んだことを議会形式で町長に質問や提案するという取り組みを行っています。その他の学年についても、学習の成果を発表する機会を作ることができないか、学校と相談したいと思います。
9	日野町のウィークポイントである少人数であるがゆえの多様性に触れる機会の少なさがあります。そこで、ICTを活用することで、県域を越えた交流をしたり、郡内で授業を共同で行ったりして工夫できると考えます。また、教員の働き方改革にもつながると考えられます。	①すでに実施済み、実施中、実施予定 ICTの活用方法については、近年も郡内の学校や大学との交流を行っています。広域交流や日常的な使用については、ご意見として伺い、具体的な取り組みを検討する際の参考にさせていただきます。
3. こどもまんなか社会の実現を目指した教育の推進		
1	「部活動地域展開への移行」は「部活動の地域展開」と表現すべきではないでしょうか。	⑤その他 「部活動の地域展開を推進すること」に修正します。
2	日野高校関連の事業は、「こどもまんなか社会」の項に記載されるのに違和感があります。また、本文では「取組に参画」となっていますが、重点取組施策では「事業の実施」となっており、立ち位置が異なるように見えますがいかがでしょう？	⑤その他 日野高校は県立の学校ですが、その生徒たちは日野町に通うか、または居住しており、日野町民とも積極的に関わっています。したがって、日野町で育つ生徒としてより良い学びの援助をすることは大切なことだと考えます。また、2つの推進協議会は日野郡3町と県等で組織をしているため「参画」としていますが、重点取組施策では、協議会で決定した事業であるため、「実施」としています。
3	重点取組施策に「・・・生活習慣の推進」とありますが、生活習慣は推進するものではないと思います。	⑤その他 「基本的生活習慣の確立を推進」に修正します。
4	【地域で育つ力を大切にする青少年育成】 未来の社会は、企業や行政に依存しそぎず、地域の知恵や文化を守りながら暮らす力が求められます。金融教育やAIの基礎に加	①すでに実施済み、実施中、実施予定 地域学校協働活動として地域の方々の力添えをいただきながら、様々な取り組みを実施しています。今後も意見をうかがいながら取

	え、地域のお年寄りさん、職人さん、寺社や寺の方々と関わりながら学ぶことは、子どもたちにとって大きな財産です。地域全体で見守られながら育つ“日野町らしい育ち”を大切にしたいと思います。	り組みを進めていきます。
5	<p>【不登校へのよりそい方としての文化財と自由な学び】</p> <p>不登校が増える中、子どもたちが安心して過ごせる居場所がとても重要です。神社の森や仏閣の静けさ、古民家のぬくもりは、子どもの心を落ち着け、自分らしい学びへ向かう力を取り戻す手助けになります。A Iを使えば、自分のペースで学べる環境も整えられます。指導要領だけにとらわれず、個々に合った学び方を認める柔軟な体制が必要です。</p>	<p>③第4次教育大綱に記載しませんが、実施に向けて検討します</p> <p>指導要領にとらわれない個々に合った学び方、教育環境の確保については、ご意見として伺い、具体的な取り組みを検討する際の参考にさせていただきます。</p>
4. ウェルビーイングの向上を促す生涯学習の推進		
1	持続可能な自治体であるために、社会教育はとても重要だと思います。公民館、図書館等の取組とは別に、町としての社会教育の取組を充実させることが重要かと思います。	<p>③第4次教育大綱に記載しませんが、実施に向けて検討します</p> <p>町として社会教育の取り組みを充実させることは必要だと考えています。実施に向けては社会教育委員等の意見をうかがいながら進めています。</p>
2	「第4次日野町教育大綱」の「4 ウェルビーイングの向上を促す生涯学習の推進」における【重点取組施作】と「第3次日野町教育大綱」の「4 自己実現と地域の自立促進を促す生涯学習の推進」における【重点取組施作】が全く同じというのは疑問に残ります。目指すべき射程が異なるのであれば、重点取組施作の具体も変わってくるのではないかでしょうか。ウェルビーイングの趣旨を踏まえた重点取組施作を強く希望します。ご検討ください。	<p>⑤その他</p> <p>生涯学習におけるウェルビーイングの向上は、多様な自己実現と地域におけるコミュニティの基盤づくりに必要なものと考えています。したがって、第3次の「自己実現と地域の自立促進を促す」を網羅した表現として「ウェルビーイングの向上を促す」と記載しています。</p> <p>生涯学習の目指すべき姿と重点的な取り組みが大きく変わることはあります。しかし、「ウェルビーイング」の視点を取り入れることで、より充実した取り組みになることを期待して表現を変更していく</p>

		ます。
3	<p>【日野町全体を学び場にするという発想】</p> <p>学校だけでなく、町全体を学びの場としてとらえ、地域の大人の知識や経験を子どもたちに伝えることは、世代を超えた支え合いを生みます。日野町の文化と風土を活かしながら、他地域に依存しない自立した学びの文化を育むことが大切です。</p>	<p>①すでに実施済み、実施中、実施予定</p> <p>地域学校協働活動として地域の方々の力添えをいただきながら、様々な取り組みを実施しています。今後も意見をうかがいながら取り組みを進めていきます。</p>
5. スポーツ、文化芸術の振興及び文化財の保存・活用		
1	<p>文化財については、文化財保存活用地域計画が作成されており、その計画に基づいた、もっと踏み込んだ5年間の施策が示されても良いのではないかでしょうか。</p>	<p>⑤その他</p> <p>第4次教育大綱には具体的な取り組み内容を記載していませんが、「文化財保存活用地域計画」により、具体的な取り組みを進めてまいります。</p>
2	<p>【健康と身体活動の重要性について】</p> <p>健康の章では運動やスポーツが重視されていますが、「身体を自然に使う日常的な動き」こそが身体の健康を支える基本だと考えます。競技化された運動だけではなく、歩くこと、外で遊ぶこと、自然の中を散策することなど、生活の延長にある身体活動を積極的に推進することが必要です。</p> <p>歩くことは、心の安定・認知能力の向上・生活習慣病予防など多面的な効果があります。日野町の自然環境は、こうした“日常的な健康づくり”を行う上で大きな強みです。スポーツ偏重ではなく、「歩く・感じる・体を使う」ことを中心に、子どもたちが心と体を健やかに育める環境づくりを提案いたします。</p>	<p>①すでに実施済み、実施中、実施予定</p> <p>スポーツにおいては幼児期の動きづくり、学校体育、競技スポーツ、高齢者の健康づくりなど幅広く取り組みを行っています。保育所や学校においては、成長段階に応じた体の動きづくり、歩くことも含めた運動習慣の定着や基本的生活習慣の確立により、たくましく生きるための健康や体力を養うよう努めます。</p>